



今日における「伝道者養成」を考える

ばく きょうく
 宣教研究所 朴 思郁

「一年之計、莫如樹谷；十年之計、莫如樹木；終身之計、莫如樹人」。つまり、「一年の計は穀を樹(う)えるにしくなく、十年の計は木を樹えるにしくなく、終身の計は人を樹えるにしくなし」という言葉があります。これは中国の春秋時代、齊の宰相であった管仲の思想の中でも特に有名なもので、一年の利益から考えるならば穀物を植えることが、十年の利益ならば樹を育てることが、そしてもっと長期の、終身的な利益を考えるならば、人材を育てることが一番であると、人材養成の重要性を強調しています。また、日本のことわざには、「桃栗三年柿八年」という言葉があります。これは、桃と栗は種を蒔いてから3年、柿は8年たって実を結ぶという意味で、単なる農業従事者の手引きではなく、人材を育てるには、それほどの熟成時間が必要であることを示していると思います。いずれも人材養成を考える上で示唆に富んだ内容で、人材養成の重要性と長期的観点を強調することから多くのことを教えられますが、私たちが考えなければならないことは、どんな人材を養成しようとするのか、そしてその人材をどのように養成していくのか、ということであると、私は思います。

果たして私たちが期待する「伝道者」とは、どんなイメージなのでしょう。所定の神学教育課程を修了し、聖書に精通し、円満な人間関係ができ、なおかつ礼儀正しく、敬虔な信仰の持ち主なのでしょう。確かにそのような資質も必要でしょうが、何よりもこの時代を生き抜いていける資質を持つことが大切であると、私は思います。その資質とは、預言者的な「感受性」、祭司的な「包容性」、知者的な「知性」といえるでしょう。まず、預言者的な「感受性」とは、この世のあらゆる不義と不公平に対して憤りを覚え、それらに抵抗することです。更に、暗澹たる思いや絶望感に襲われている状況においても、劇的な「神の介入」を想像し、希望を見出すことです。また、祭司的な「包容性」とは、この世に耽溺し神に逆らう人々を、一方的に裁かず否定せず、彼らと自分を同一視し、神との和解を促すことです。また様々な差別にさらされている社会的弱者、移民や居場所を失った周辺人に関心を持ち、配慮することです。そして、知者的な「知性」とは、神の言葉に基づいて、この「時代」と、この時代を動かしている「時代精神」を的確に読み取ることです。更に、自分の信仰や主義を絶対化せず、開かれた心で、批判的に「自己省察」を続けることです。

言い換えれば、この時代を生き抜いていける資質とは、変わりつつある現実において、神について、世界に対して、教会に対して、また人間について、この時代にふさわしく、的確に考え、実践につなげることができることです。それは、平凡な生活の出来事から、政治、経済、社会、文化、歴史の行方まで、信仰の事柄として受け止めて、自ら考え、自分なりの答えを見出す、そして「生の全領域において」その答えを受肉化して、いわゆる、自ら「神学する」ことができることです。それが私のイメージしている、今日における「伝道者像」なのです。

そのような「伝道者」をどのように養成していくのでしょうか。すでに、全国壮年会連合を中心に行っている「奨学金支援制度」は、私たち日本バプテスト連盟における「伝道者養成」の大きな柱となっていることは議論の余地がありません。その上、更に私たちが考えなければならないのは、「伝道者養成」は、神学校時代だけではなく、もっと長いスパンで考えるべき事柄であるということです。

現在、私たち連盟には、献身の思いが与えられた人や実際に神学校に入学する人を対象とする「献身者研修会」、「神学校入学前研修会」(宣教部、女性連合、宣教研究所共催)などが行われています。そして、彼らは、神学校での学びを終えて、現場に出る前に宣教研究所主催の「新任牧師・主事研修会」を通して、バプテスト牧師、主事として、教会に仕えることの心構え、連盟の協力伝道にかかわることの意味について具体的に学ぶことができます。そして、牧会現場に出て、ある程度経験を積んでから、牧師どうしが互いにこれまでの牧会を振り返り、研さんを重ねていくことができる、宣教研究所主催の「3年から5年」、「10年から15年」の「経験年数研修会」があります。神学校を含めて、それら一連の研修会が、ほかならぬ「伝道者養成」の場なのです。

もちろん制度上の不備など、いろいろな課題を抱えています。申し上げたいのは、「伝道者養成」とは、単なる神学校時代に奨学金を授与することだけではなく、入学前の研修から、神学校での修業、卒業後の研修、そして経験を積んでからの継続研修までを総括する、長い道のりであることを、みんなが共有できればということです。私たちが祈りと献金をもって支援する、尊い「伝道者」一人ひとりが、一人ぼっちにならないように、また現場に送り出され「放置」されないように、これからも連盟、神学校、宣教研究所が、常に緊密に連携し、できるだけの支援をしていきたいと思っています。



カンボジア・ミッションボランティアでの経験と恵み

西南学院大学大学院神学研究科博士課程前期2年 嶋田和幸（推薦教会：宮原キリスト教会）
西南神学部に入學して、もうすぐ5年。ここまで、神学校で本当に多くのことを学び、経験させて頂きました。それらは全て、全国壮年会連合の皆様の祈りと奨学金の働き無くしては有り得ませんでした。改めて、ここに心からの感謝を申し上げたいと思います。今回は、昨年のカンボジア・国際ミッションボランティア（以下IMVと記述）について書かせて頂きたいと思います。

昨年5月から10月末まで連盟から派遣され、首都プノンペンで活動してきました。主な働きは、男子学生寮での働きと、農村での農場の働きです。男子寮の働きは、カンボジア・ハプテスト連合のミニストリーの1つであり、10人程の学生が生活する小規模の寮です。私は彼らといっしょに寮に住み、寮監の宣教師と共に彼らに聖書や日本語を教えたり、寮1Fで行われる日曜日の礼拝で説教などの奉仕を行って来ました。学生たちは皆地方出身で、この寮がなければ大学生生活が叶わなかった者たちばかりです。平日の夜にはほぼ毎晩祈り会が行われます。入学時はノンクリスチャンだった学生たちは、寮生活の中で聖書を学び、礼拝に参加し、クリスチャンになっていきます。

もう1つは農場の働きです。プノンペンから車で2時間の村に、広さ約1ヘクタールの農場があります。この農場の目的は、農村地方の牧師や、貧しい村民たちの生活を支援することです。農民は雨水に頼った耕作をしており、乾季には農業が十分できず、主に男性たちは生活のために街へ出稼ぎに出ます。そこで誘惑に会い、家に帰ってこなくなるケースが多いのです。牧師も農業をしながらの牧会ですが、やはり乾季には出稼ぎをする必要があり、牧会や伝道に集中できません。農場では現在、養鶏と有機野菜栽培を行っており、今後牧師を中心に、農業や養鶏訓練を行う予定です。より効果的な農業や養鶏ができれば収入が増え、出稼ぎに行かなくて済みます。家族の結びつきが強まり、牧師は牧会と伝道に集中できるようになります。これまで寮の宣教師と定期的にこの農場を訪れ、農作業をしながら近隣の村民を訪問してきました。また、農場近くには新しい教会も完成し、農場の訓練と平行して牧師・信徒訓練が行われる予定です。

神学校生活の最後に、IMVを通してこのような豊かな実践の経験が与えられたことは本当に大きな恵みでした。これからも奨学金の働きが祝福され、一人でも多くの神学生が学ぶことができますように、心からお祈りいたします。



東北地方連合壮年会の神学校献金推進活動について

東北地方連合壮年会神学校献金推進委員 中山晴久（仙台基督教会）

まずもってご報告の前に、神学校献金推進委員としての職務をほとんど遂行していない小生がこのような報告させて頂く立場ではない事、東北地方連合壮年会渡邊会長・伊東奨学金委員長の多大なご支援（本当に感謝です！）があつてご報告できることをご認識頂いた上でお読み頂きたいと存じます。

震災から丸3年。全国の壮年会の皆様の多大なるご支援に感謝申し上げます。心より御礼申し上げます。その皆様の熱き祈りが神様に通じ、恵みが与えられました事を最初にご報告させていただきます。被災地の推進委員として何と云っても神様の最高の祝福は、大野神学生に加え、吉田尚志兄（盛岡教会）と青木紋子姉（南光台）の計3名の東北連合から神学生が誕生した事です。本当にうれしい限りです。そして、その御恵みに感謝の気持ちを込めて、最大のアピール場である神学校週間にあたり連合全教会壮年会に、2つのポイントでお願い状をお送りさせて頂きました。

『一つ目は連合内100万円達成（2012年度76万円）。神様の召命を受け被災地から立ち上がった3名の神学生を支えるためぜひ達成させて頂きたいこと。二つ目は東北連合内全教会の神学校献金参加。被災地東北の全教会が自ら神学校献金を支えることによって「被災地支援して頂いた全国の教会への恩返し」となること。』

これらの働きによって「震災！心の復興」を支える伝道者を養成することで、被災地支援をしていただいた全国壮年会に対する感謝の応えができることをアピールさせて頂きました。

結果、12年度3教会が神学校献金を捧げられませんでした。13年度1月時点で、あと1教会で達成できるところまで来ました。神様のお導きに感謝です。100万達成は難しい状態（1月時点75万）ですが引き続き祈っていきたく思います。

また、連合全体で支援させて頂いている酒田のそみ教会（山形県酒田市）を覚えることも活動目標にしています。そして酒田伝道を覚える日礼拝（3月）を連合教会で実施しています。事務局である仙台教会として全教会の皆様にご挨拶申し上げます共に、ぜひお祈りに覚えて頂きたいと思っております。

イエスは『ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいて、天にいるわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。』と云われました。

今こそこの御言葉に答えるべく東北連合壮年会が一つになって一人でも多くの被災者に「そのイエス様の御言葉」を述べ伝えるための『神学生の育成支援』を推進していきたく思います。どうか皆様のお祈りに覚えていただければ幸いです。



証し「私を海外技術協力に駆り立てたもの」

鯉淵登 (水戸バプテスト教会)

「わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。あなたがたの中でよい業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。」(ピリピ1:3~6)

この御言葉は、1952年7月から水戸バプテスト伝道所の宣教師として、後には水戸バプテスト教会牧師として、1984年8月4日アメリカへ帰国されるまで宣教・牧会に当たられた、トム・D・ガラット先生(写真)から贈られたもので、私の信仰生活、職業人として、とりわけ通算13年余りインド(1965年~1968年)、タンザニア(1994年~2001年)、そしてエチオピアといった、途上国での海外技術協力に駆り立てたものです。

私の主イエス・キリストに対する信仰は、1952年11月6日~8日の3日間、茨城会館で開催されたE・B・ドージャー先生による特別伝道集会に導かれ、求道決心をしたことに始まります。その時の私は、農業高校3年生で友人と水戸で自炊生活をしていました。程なく集会案内をいただきました。それがなんと、水戸バプテスト伝道所は私たちの家から道を隔てた白亜の洋館、ガラット先生ご一家の宣教師館でした。私の信仰生活は、ドージャー先生によって種がまかれ、ガラット先生ご夫妻に育てられたようなものです。勿論、日本人牧師による牧会に負うところ大です。

技術的な側面は、専門学校や職場の先輩に戦前戦中、支那(中国)や満州で活躍された方々から海外で活躍された体験を聞かされたことなどもあって、途上国支援に対する夢が膨らみ、農業改良普及員から農業試験場の研究員になった時に、当時飢餓宣言をしたインドに日本式稲作技術を伝えるインド農業技術センター計画に参加しました。当時、日本政府も海外技術協力には手探りの状態で、「インドの農民と共に働け」というものでした。米づくりにおいては輝かしい成果を上げるのですが、その割に成果がインド政府に評価されません。私達専門家は農水省から指示された通り、インドの農民以上に血みどろになって働いたのです。インドはカーストの国です。そんな私達は最低カーストにも入らないハリジャン(不可触賤民)というレッテルを張られたからでした。そのことに気付いた日本政府は、農作業と事務作業、私生活とプロジェクト活動には、服装や生活態度にメリハリをつけることとなり、程なくこの問題は解決しました。このことは、支援する相手国の宗教、文化や習慣に配慮した活動の大切さを知る機会となり、その後の海外技術活動に大いに役に立ちました。ガラット先生が排他的気風が強い水戸の地で、お子様を地元の小学校で学ばせられたのも日本人を救済に導くための努力だったのです。

大井バプテスト教会 壮年会活動報告

カレーパワーdeさらなる工夫と進化を

大井バプテスト教会 壮年会会長・松原光一

原稿依頼をうけて、気づきました。昨年度の地下食堂の壁の苔落とし、一昨年のお礼拝堂イスの塗装作業といったワークを、今年度は何もしていないということです。「壮年会」即「肉体労働」というわけではありませんが、教会内のあり方としては有効と考え、取り組んできていました。



しかし、今年度は加藤藤成牧師の着任をうけて、壮年会としても少しく考えざるを得ませんでした。教会で「一番新しい壮年のメンバー」が牧師であるという事態をうけ、壮年の顔と名前を加藤牧師に覚えてもらう意味と、教会への足が遠のいている若手壮年を呼び戻すきっかけ作りを兼ねるプログラムを、例会の中心にしてきたからです。

若手壮年にもそれぞれの事情があるにしても、なんとか彼らに次の教会を担ってもらわない限り、壮年会だけでなく教会そのものの将来があやういからです。ある意味、キリスト教界の縮図でもある壮年会ですが、40名前後の会費納入者がおり、20名ほどの月例会参加者がいることは、まだ「贅沢な悩み」といえるかもしれませんが・・・

でも、昨年度だけで4名の召天者が出たことは厳粛に受け止めており、お尻に火がついた思いです。

暗い予想になりかけてもいけないので、40年近く壮年会が続いて来ているパワーの源、「カレー作り」の奉仕を紹介します。毎月、第1日曜日はカレーかハヤシライスのどちらかを提供し、その80%を神学校献金に、20%を建築献金としています。1回の利益が1万~1.5万円なので、壮年連合に奉げている神学校献金の1/3くらいは、カレーによるものです。

しかし、舌の肥えた女性たちから「隠し味はなに?」と聞かれるまでには試行錯誤の繰り返しでした。ポイントは、①玉ねぎの甘味を最大限引き出すこと、②ルーは火を止めてから最後にいれることです。

壮年会もカレーづくりも、絶えず工夫をしながら、進化し続けていきたいと熱く思っています。

全国の教会・伝道所の壮年の皆さまへ（全国壮年会連合事務局長 井伊肇）

2014年1月現在 神学生奨学金献金・会費の納入状況と、納入促進・期限内納入のお願い

地方連合	神学生奨学金献金					連合会費				
	2014/1 実績		前年同月		対前年差	2014/1 実績		前年同月		対前年差
	金額	教会	金額	教会		金額	教会	金額	教会	
北海道	341,392	9	439,908	10	-98,516	73,500	5	66,000	5	7,500
東北	748,148	17	551,283	14	196,865	80,000	12	72,000	10	8,000
北関東	1,619,520	17	1,775,739	18	-156,219	255,000	13	154,500	9	100,500
東京	2,560,225	30	2,509,849	29	50,376	262,500	17	294,000	17	-31,500
神奈川	2,037,780	13	1,973,484	13	64,296	196,500	9	210,000	9	-13,500
西関東	481,800	7	499,314	9	-17,514	57,000	7	58,500	7	-1,500
中部	731,635	9	747,200	9	-15,565	117,000	10	106,500	9	10,500
関西	740,682	19	836,590	21	-95,908	99,000	8	91,500	6	7,500
中四国	710,720	15	851,010	15	-140,290	109,500	11	111,000	12	-1,500
北九州	854,760	17	1,002,151	19	-147,391	114,000	10	109,500	11	4,500
福岡	2,089,733	28	2,102,824	29	-13,091	234,000	18	246,000	19	-12,000
西九州	830,637	9	434,990	8	395,647	36,000	4	16,500	4	19,500
南九州	683,683	13	478,946	14	204,737	139,500	11	75,000	7	64,500
個人団体等	431,001		621,225		-190,224					0
総計	14,861,716	203	14,824,513	208	37,203	1,773,500	135	1,611,000	125	162,500

いつも全国壮年会連合のために祈り、お支え下さり有難うございます。今年度もこのニュースが皆さんのところに届くころには、残すところ1ヶ月あまりになっていますね。1月末現在の献金と会費の納入状況を表に示しました。

献金・会費とも引き続き前年同月の実績を上回っています。一方でそれぞれ目標額・予算額に対しては約50%、71%の状態です。目標額に向けた献げものを是非よろしくお願い致します。

なお、3月31日までにゆうちょ銀行の口座に入金されたものを2013年度分とします。期限内の納入となるように、早めの納入をお願い致します。（例年献金は全体の3割、会費は2割が3月に納入されています。）

2014年（第49回）全国壮年大会 in 広島（ご案内）

○開催日	2014年8月22日（金）～23日（土）
○開催場所	広島市文化交流会館（22日） 広島教会（23日）
○大会主題	『キリストにある愛と平和をめざして』
○大会聖句	「平和を実現する人々は、幸いである。 その人たちは神の子と呼ばれる。」マタイ5：9
○主題講師	スティーブン・リーパー氏 【講師略歴】 ◇ 広島女学院大学・客員教授。2013年3月まで広島平和文化センター理事長を6年間務める。 ◇ 2010年8月9日、「なぜ『キリスト』が平和への希望なのか？」と題して、長崎原爆記念日礼拝で説教する。（会場：長崎バプテスト教会、主催：長崎キリスト教協議会） 父ティーン・リーパー氏（宣教師）は、1954年青函連絡船「洞爺丸」沈没事故で自分の救命胴衣を他の乗船客に譲って亡くなったことで知られる。 ◇ 米国長老派教会員。（広島では主に日本基督教団の教会及び超教派の祈り会に出席）
○実行委員会	委員長：石倉 央（広島）、副委員長：松田裕二（道後）、事務局長：渡辺 洵（広島） 委員：武井邦夫（高松太田）、立田卓也（松山西）、鳥井正也（岡山）、舛田栄一（広島） 準備のためにお祈りください。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務時間：月、水、金 10:00～16:00

☎・fax：048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp

振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟 全国壮年会連合事務局